

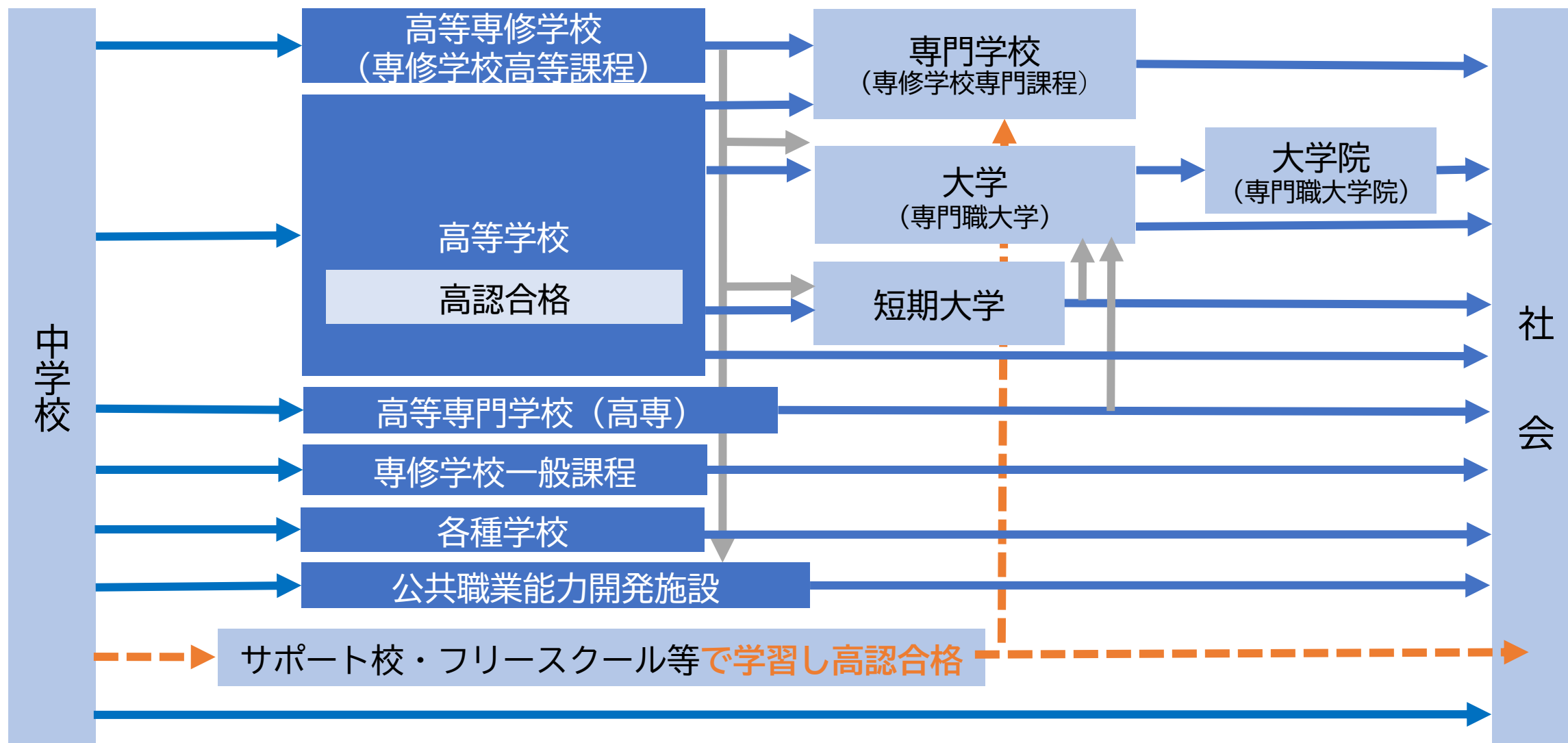
令和7年度「不登校生徒・保護者のための進路説明会」資料

多様な進路の一つとしての チャレンジスクールについて

都立高校に期待できること

令和7年6月21日（土）
東京都立世田谷泉高等学校
統括校長 森田 常次

中学校卒業後の選択肢



文部科学省HP資料を参考に作成(部分加筆)

高校進学への不安



不登校を理由に不安を感じる必要はありません！

「学力」と「登校」で判断しよう

不登校経験があっても全ての学校が選択肢になりますが...

- ①学力○ 登校○ ▶ 応募者数の少ない都立全日制高校
内申点を重視しない私立高校
- ②学力△ 登校○ ▶ 特色ある全日制高校・定時制高校
- ③学力○△登校△ ▶ 特色ある定時制高校
- ④学力－ 登校× ▶ 通信制高校（＋サポート校）

■ 都立高校にもたくさん選択肢があります

不登校経験が不利にならない

個に応じた支援が期待できる

- チャレンジスクール（7校）
- 三部制の昼夜間定時制高校（6校）
- 夜間定時制高校（44校）
- 全日制のエンカレッジスクール（6校）
- 通信制高校（3校）

■ 共通する点は

- 基礎から学習します
- ひとりひとりに応じた支援が基本です
- 専門家に相談ができます（世田谷泉の例）
 - スクールカウンセラー 3名 週3日
 - ユースソーシャルワーカー 4名 週4日
 - 臨床発達心理士・特別支援教育士 月2回
 - 学校精神科医 月1回
- 子どもを見守る社会のしくみと連携して支えます

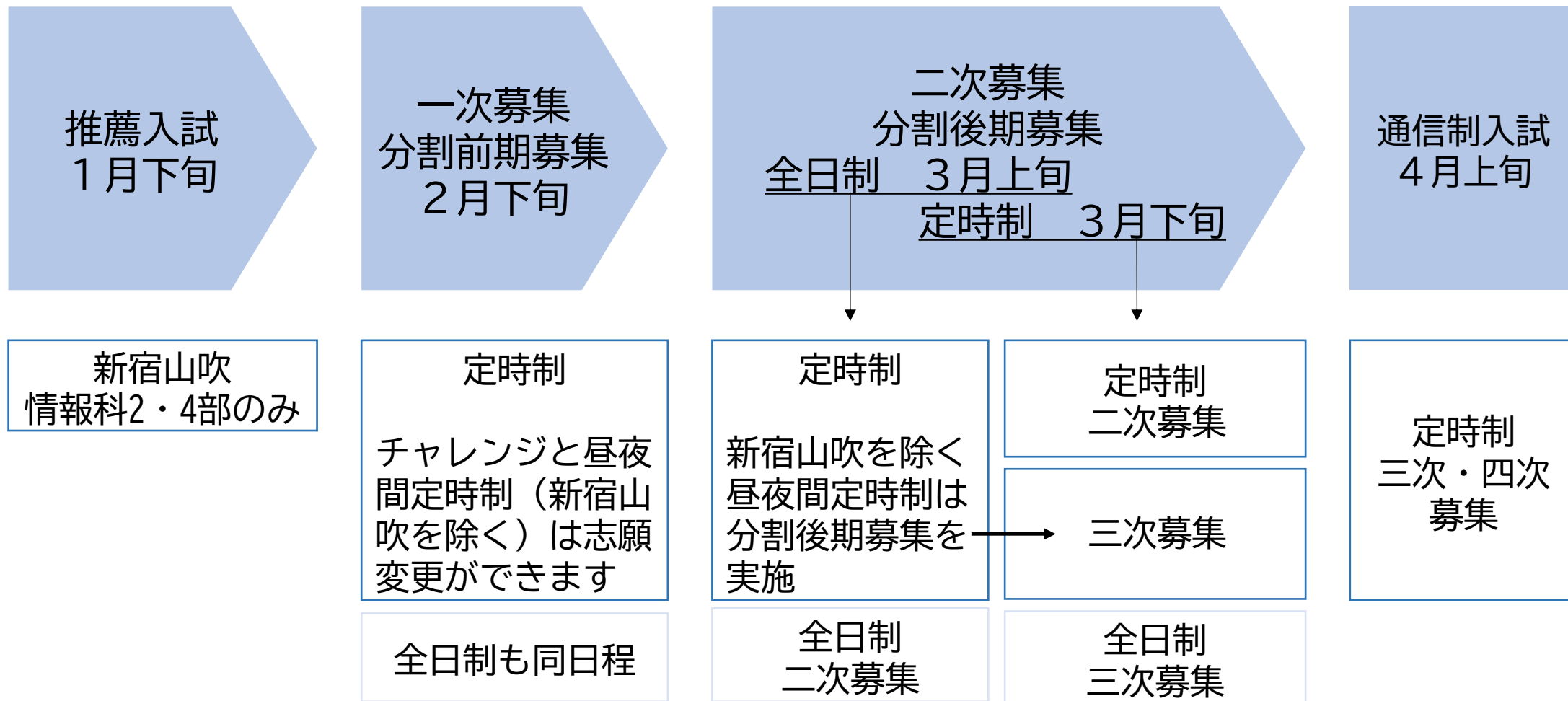
異なる点は

入学者選抜の方法と倍率・募集回数（令和7年度入試）

	方 法		倍率	募集回数
	学力検査	調査書		
チャレンジ	なし	なし	部や学校 により 1.0以上も 1.0以下も	1次募集のみ ↓ 複数回 3・4月実施も
エンカレッジ	なし	あり		
昼夜間定時制	あり	あり		
夜間定時制	あり	あり	1.0以下	
通信制	あり	あり		

都立高校の受検機会は複数あります

令和7年度入学選抜の場合
令和8年度入学選抜は東京都
教育HPで確認が必要



*8月の二学期転入学募集では1学年に10名の「特別枠」募集があります

■ 世田谷泉高校はどんな学校？

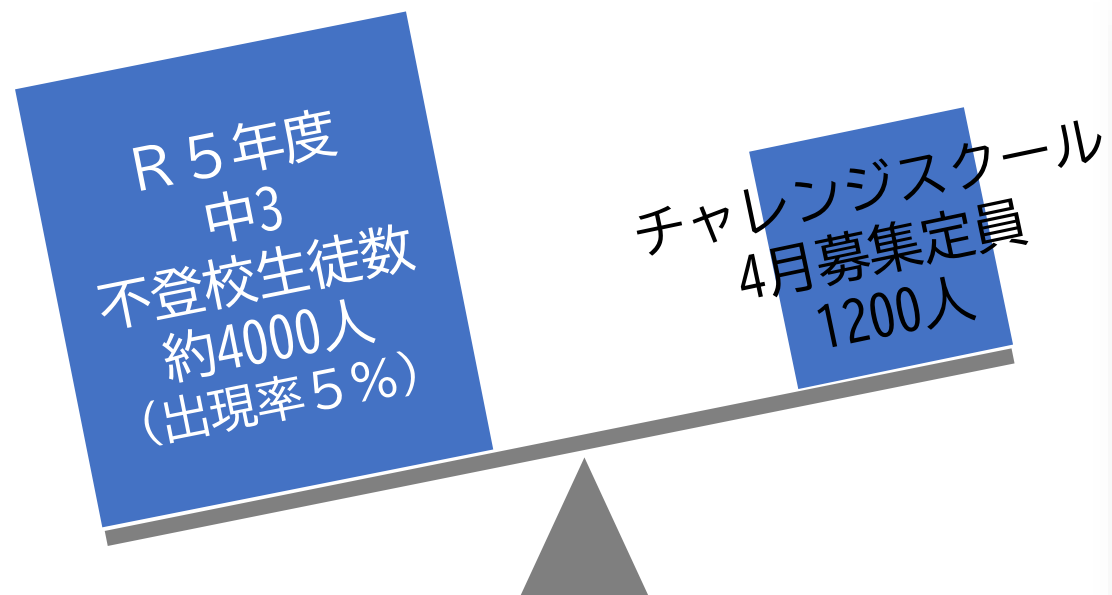
- 平成13年開校のチャレンジスクール
- 生徒数605人（定員720人）
- 三部制・単位制・総合学科
- 小・中での不登校や高校中退生徒を受け入れ
- 個に応じた指導の徹底
- 学力検査・調査書のない特別な入学選抜
- 他部履修により半数の生徒が3年間で卒業



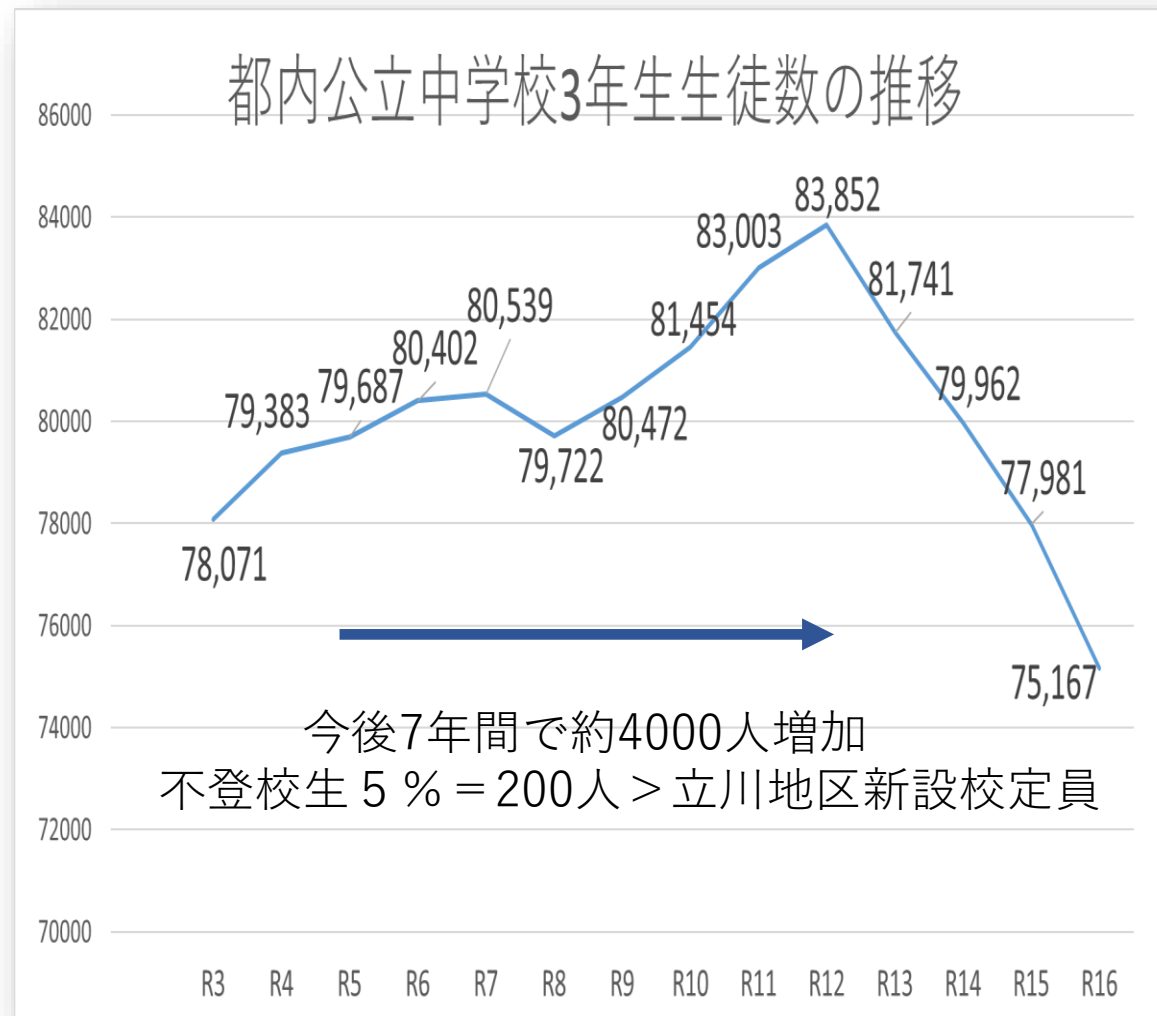
チャレンジスクールのコンセプト

「生徒が学校に合わせるのではなく、学校が生徒に合わせる」

■ 世田谷泉は「入学生100%を不登校生に」が目標です



学力検査なし・調査書提出なし
という特別な入学者選抜方法は
不登校生の進学不安解消のために



■ 学校の仕組み① 三部制とは

- I 部は午前、II 部は午後、III 部は夜間
- 1 日 4 時間の授業で、4 年間で卒業することが基本
(他部履修等で 3 年間で卒業も可能)
- 学校外での活動と両立しやすい
- 在籍する部は入学時に決定し卒業まで継続
(人数は限定されますが転部の機会もあります)

■ 学校の仕組み ②単位制とは

■ 学年制のように「進級」「留年」がなく、
3年以上在籍して74単位以上を修得すると卒業

■ 自分の興味・関心に応じた科目を
より多く選択できる

■ 授業以外でも単位が取得できる



学校の仕組み ③総合学科とは

- 普通科目と幅広い専門科目を学ぶ
- 科目選択の際、目安となるよう相互に関連する科目をまとめた「系列」がある

学校名	系列		
桐ヶ丘	福祉・教養	情報・ビジネス	アート・デザイン
世田谷泉	生活・福祉	製作・技術	創作・表現
大江戸	伝統・文化	生活・福祉	情報・ビジネス
六本木	芸術・加チャー	生活・ウェルネス	情報・サイエンス
稔ヶ丘	情報・デザイン	ビジネス・コミュニケーション	人間・環境
小台橋	情報・ビジネス	アート・デザイン	人文・自然
立川地区	生活・文化	アート・デザイン	人文・自然



■ 世田谷泉過去20年間（1.0）の成果と課題

登校が安定
単位修得率
卒業率
進路決定率

60～70%

登校できる生徒は
ほぼ100%卒業

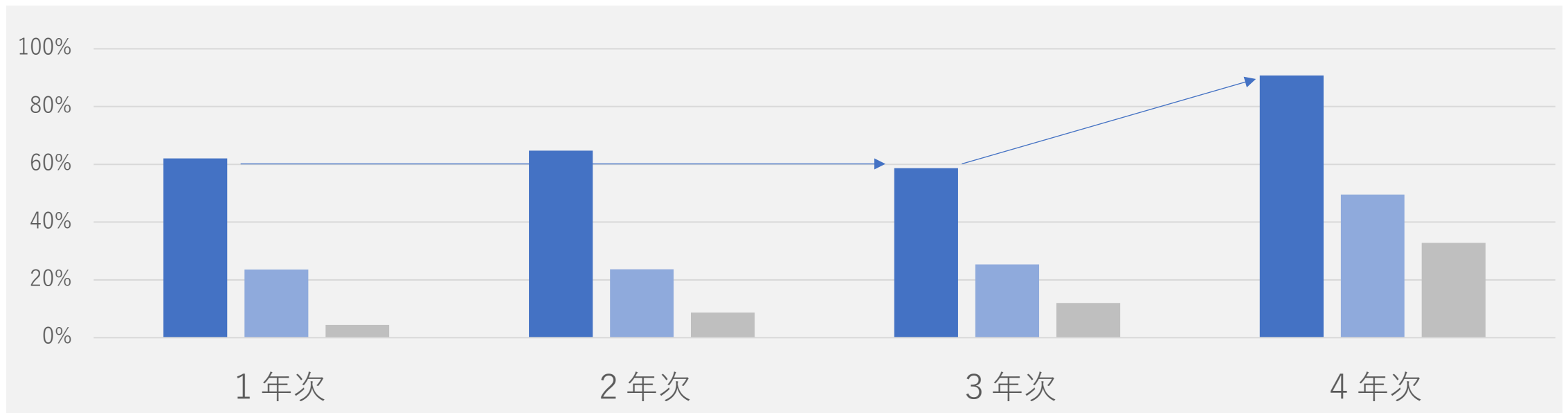
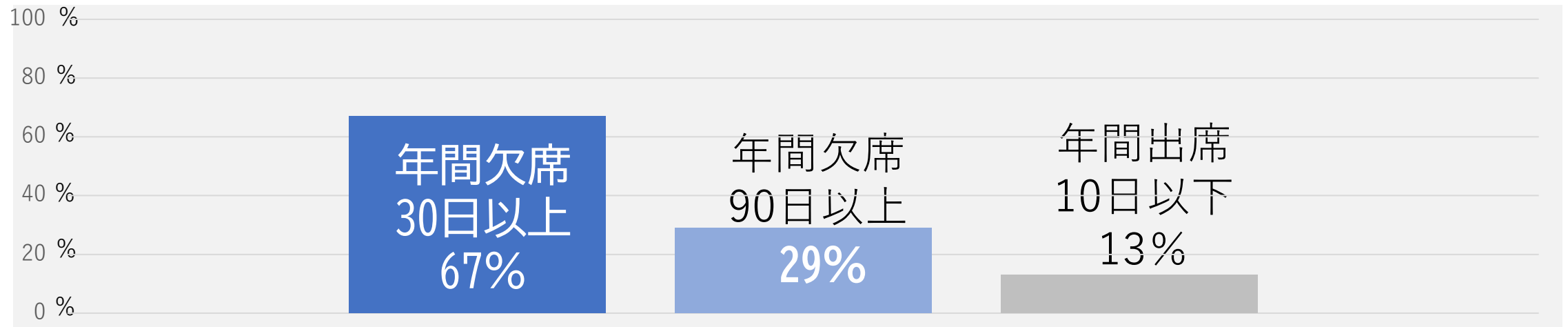
登校ありきの指導の限界

R 5 年度	不登校経験のある入学生	84%
	配慮を希望する入学生	47%

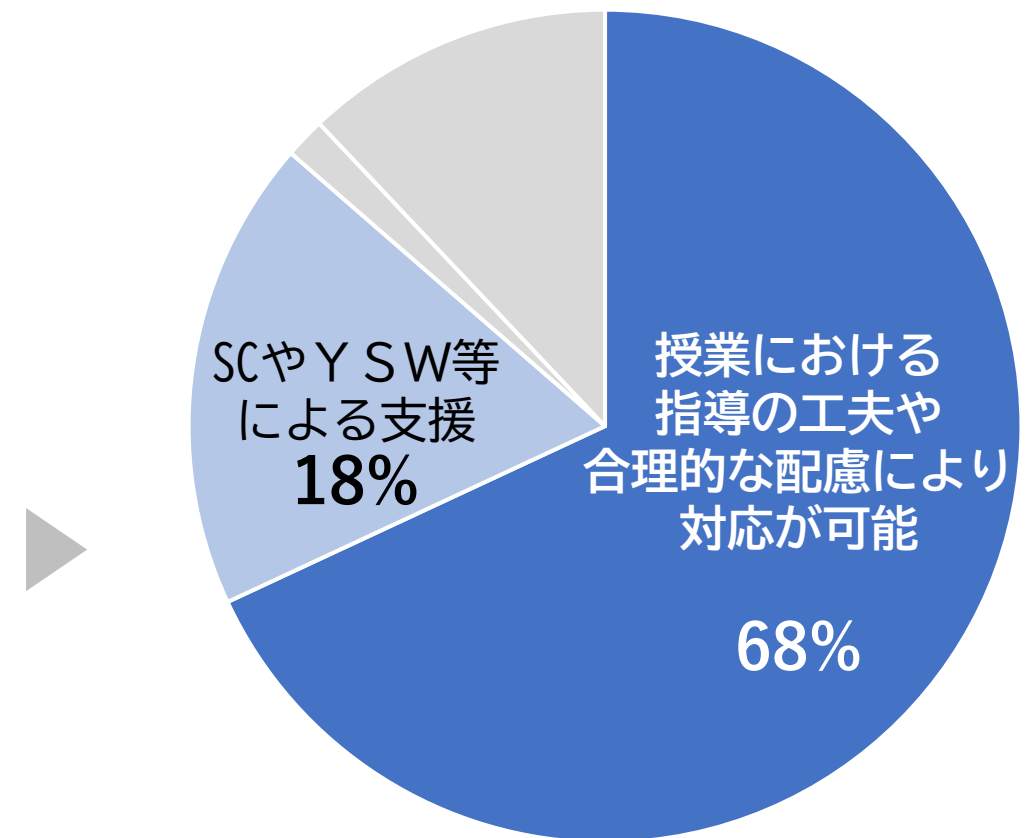
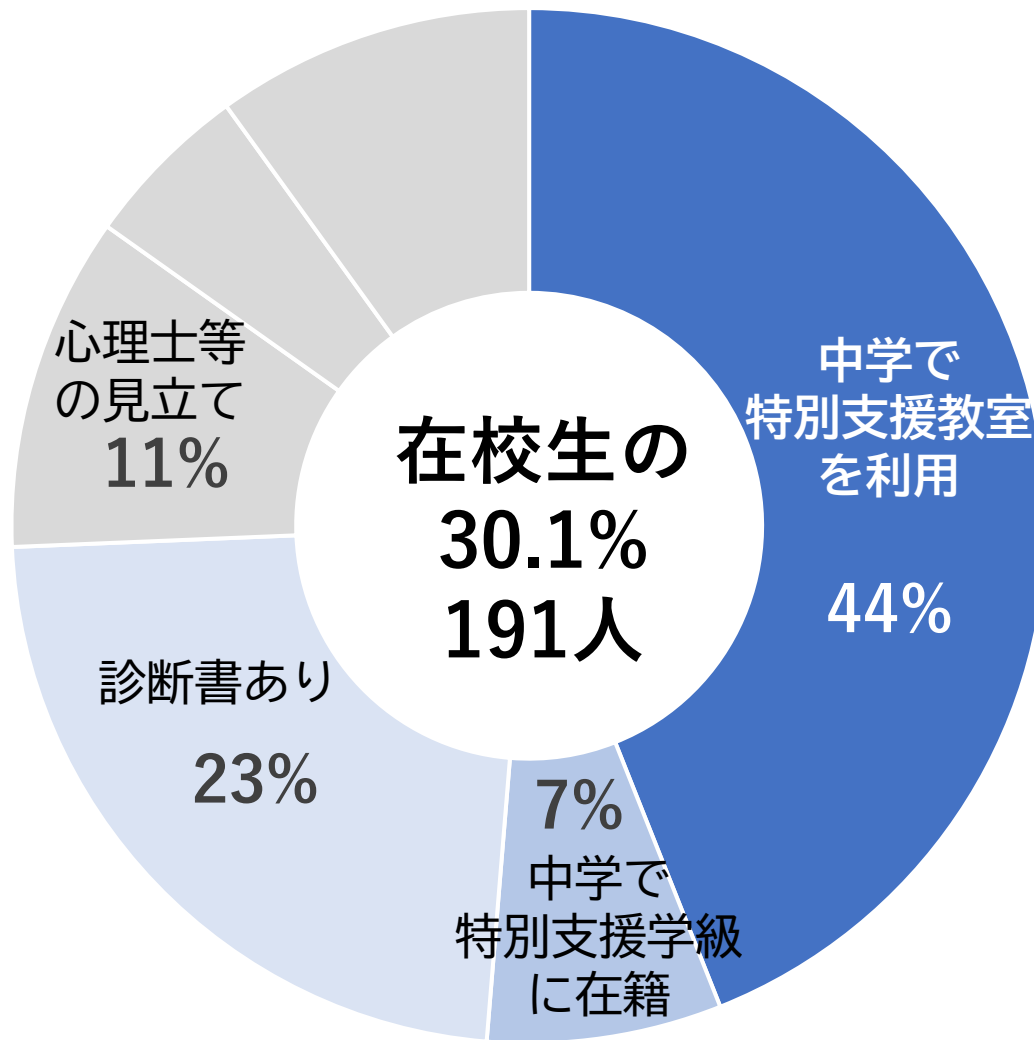
増加傾向

課題 登校できない生徒・障害や特性をもつ生徒の支援の充実

■ 在校生の不登校傾向（令和5年度）

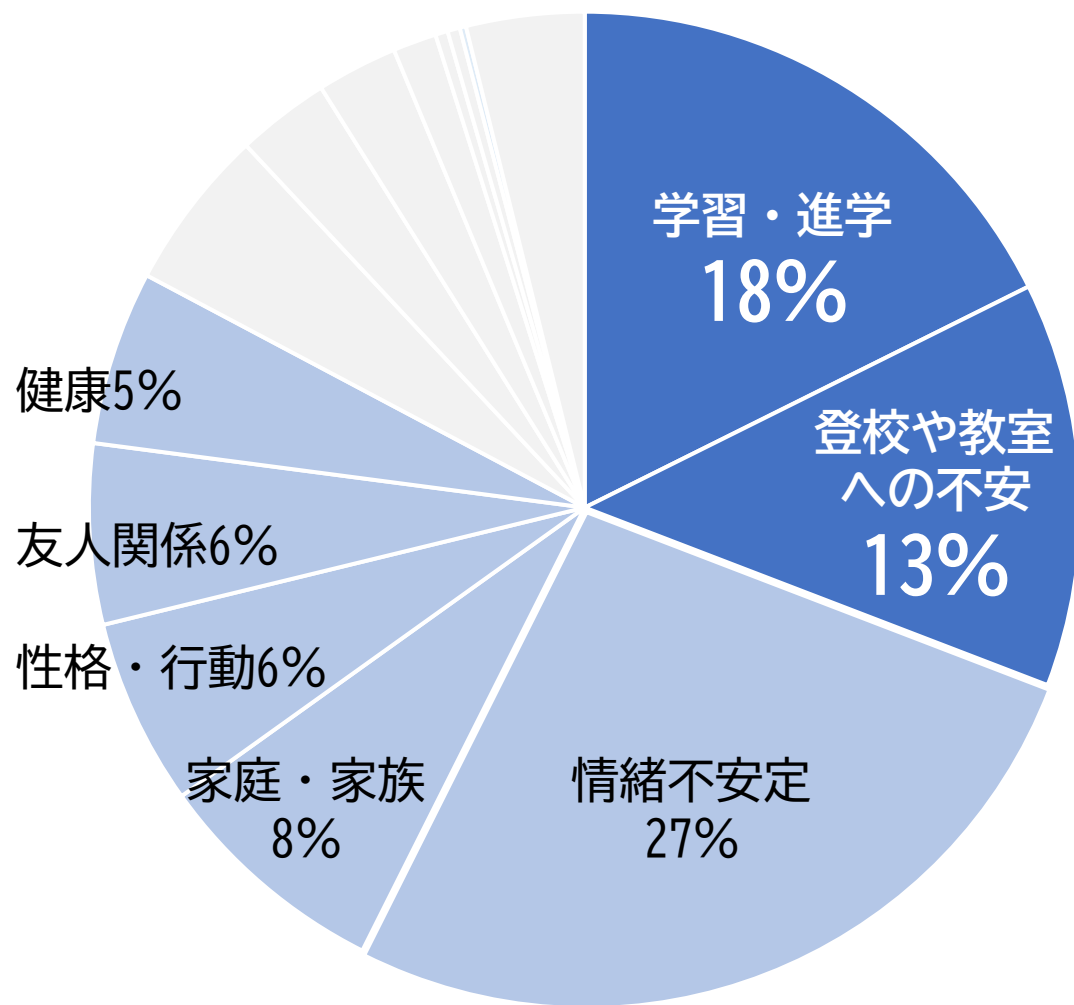


発達障害及びその可能性のある生徒への対応



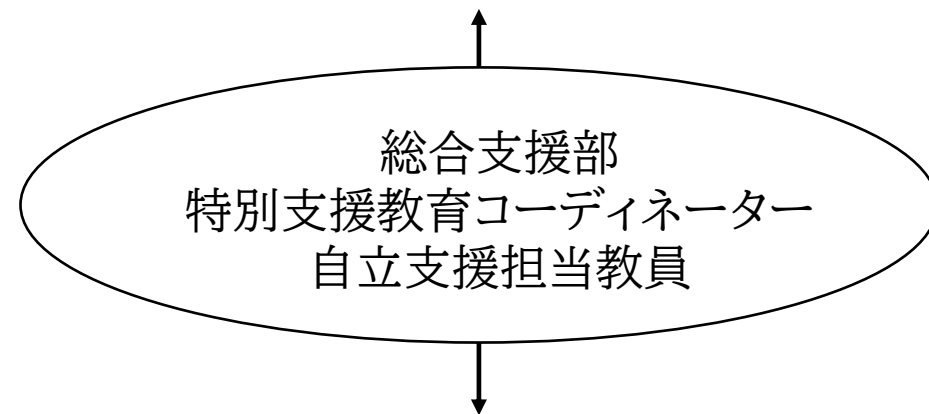
授業のUD化や構造化
ICT機器の活用や教室環境の統一
苦手を把握する授業アンケート実施

不安をもつ生徒への対応



SCやYSWが対応した相談内容（令和5年度493件）

専門職による相談と支援で解決
医療や福祉への接続



学び方の選択肢を増やすことで
不登校要因となる学習不安解消

不登校傾向に応じた支援

令和5年11月「ふれあい月間」での不登校調査結果から
令和5年4月1日～11月30日までの欠席状況

	1年次	2年次	3年次	4年次	計	
13日以上欠席（不登校傾向）	58.9%	53.6%	55.8%	55.6%	56.1%	357人
うち欠席30日～89日	1.6%	22.5%	23.4%	46.0%	21.2%	135人
うち欠席90日以上	0%	12.1%	14.3%	9.7%	8.6%	55人
うち出席日数1日～10日	2.7%	2.9%	5.2%	2.4%	2.0%	13人
うち出席日数0日	0%	4.6%	5.8%	11.3%	4.9%	31人

■1年次で不登校傾向が現れた段階での支援開始の重要性

- ・理由が「わからない」ケースにこそ学習を諦めさせない

■2年次以降の固定化に対して「登校を前提としない支援」が必要

- ・教室以外の多様な学び方を用意する

■4年次における5・6年次生徒の支援の重要性

- ・4年次クラス編成の工夫で5・6年次生の支援の充実を図る

■別室やVLPを活用させたい生徒

自分のペースで学ぼう

■授業のみで単位修得の場合。学校外の学修を組み合わせればパターンは無数

学習パターン		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
毎日4時間	【基本の4年卒】	19 単位	19 単位	19 単位	17 単位		
週に2日4時間 週に3日6時間	【3年卒】	25 単位	25 単位	25 単位			
1年次に週2日4時間 2年次から毎日4時間	【5年卒】	8 単位	19 単位	19 単位	19 単位	17 単位	
週に3日4時間 + α	【6年卒】	12 単位	12 単位	12 単位	12 単位	12 単位	14 単位

「ゆっくり学ぶ」
を支援する

■ ちょっと一休みしてから卒業をめざすこともできます

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
0 単位	8 単位	19 単位	19 単位	19 単位	17 単位
0 単位	0 単位	25 単位	25 単位	25 単位	

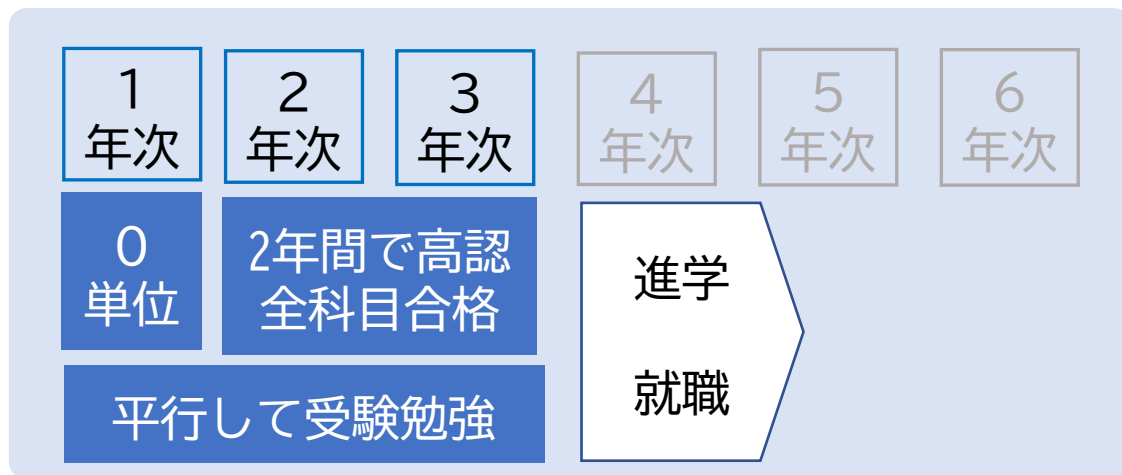
1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	7 年次
0 単位	0 単位	0 単位	19 単位	19 単位	19 単位	17 単位

登校が安定し、その継続が見込まれる場合

世田谷泉に入学した生徒は みんな 世田谷泉を卒業してほしい

転学や退学を選択する必要のない学校にしよう！

■卒業にこだわらず「高認」合格で進路実現も「あり」です



授業以外での学習支援

- ①自習室整備と支援員配置
- ②別室指導
- ③オンデマンド学習

■授業以外での学びや体験を単位認定する仕組みが拡充

検定試験合格・ボランティアだけでなく、学習プログラム参加・アルバイトも！

■通信制との併修制度

都立通信制は定員充足により転入・併修が困難ですが、制度に柔軟性のある私立通信制の科目履修を本校で単位認定します

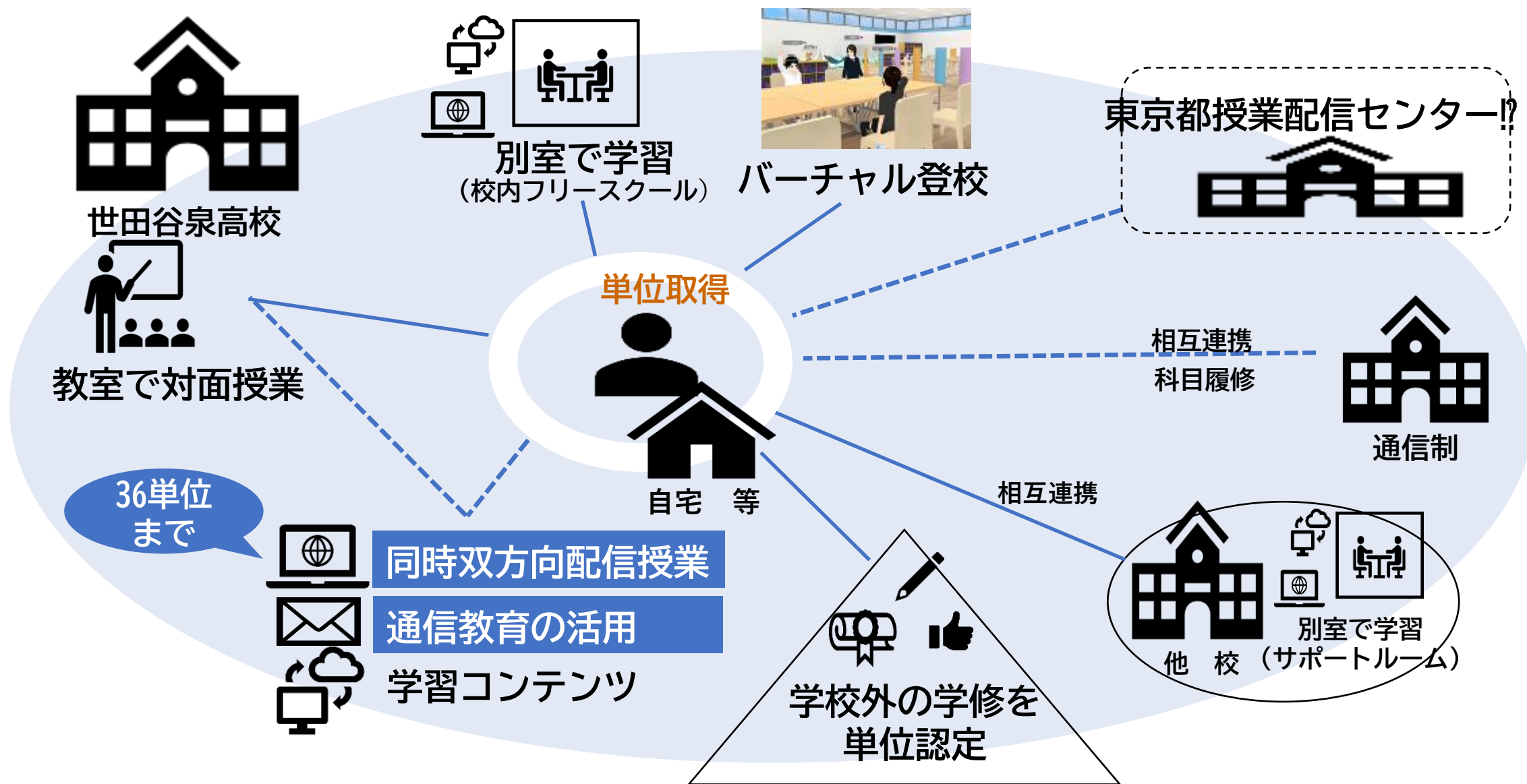
■ 世田谷泉2.0

不登校の本質的な解決ができない学校が取り組むべきこと

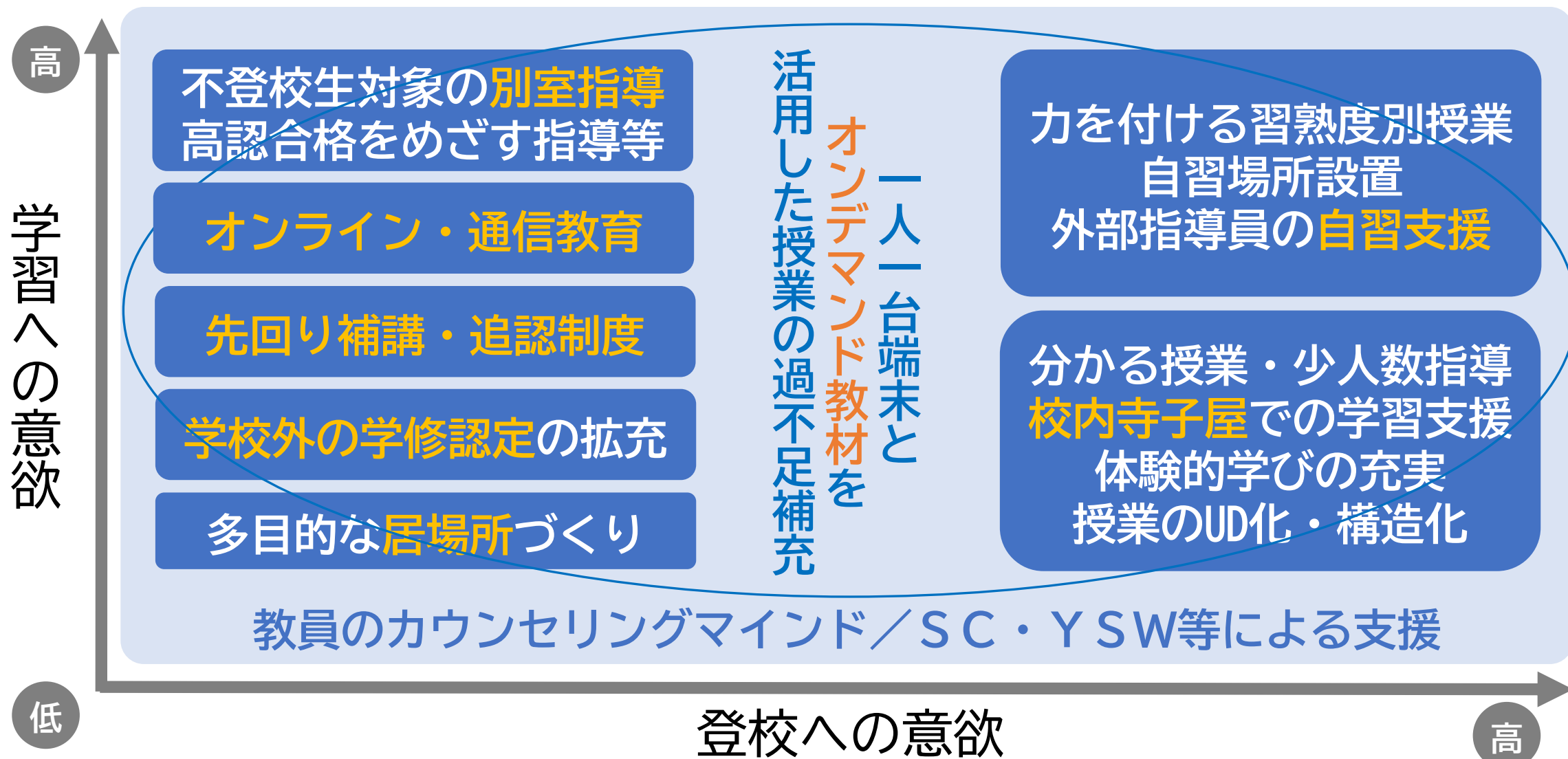
- 「登校できなくても学びは継続できる」ように学びの機会を保障し、転退学を選択しなくてよい学校へ
- 「いつでも・どこでも・どのようにでも」学ぶことができる学校へ
- 生徒も保護者も教員も不登校を苦しむ必要がない学校へ

「不登校」の概念すら無くなる学校と社会の実現へ

どのようにでも学べる仕組みへ



学習意欲・登校意欲に応じた支援



多様な支援を目的とする居場所づくり

SCとの
教育相談室

グループ・
インター
講座

生徒交流
のつどい
趣味の泉

保護者
交流会
なごみの泉

別室
指導
マイ・スペース泉

バーチャル
ラーニング
プラットフォーム
R6から予定

YSWとの
支援相談室

コミュニケーション
アシスト
講座



フリース
ペース



日本語
指導

通級によ
る指導

自習
スペース
自習スペースいずみ

校内
寺子屋
まなびの泉

働く
チャレンジ
プログラム

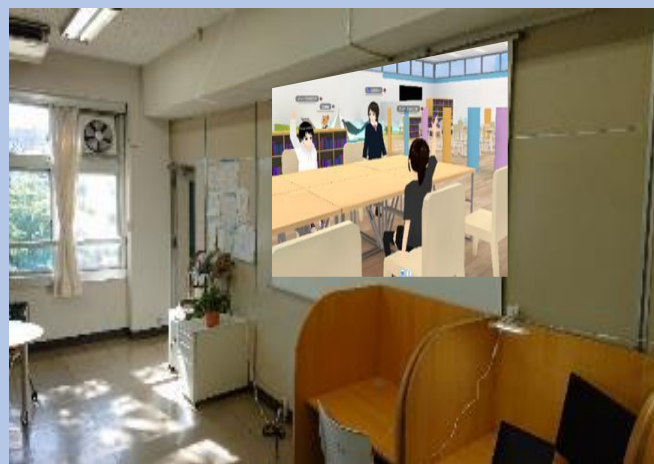
校内別室指導（校内フリースクール「マイスペース泉」）

令和5年度

- 不登校や教室に馴染めない生徒限定の学習の場
- 平日10時～20時に常時2名の支援者が常駐
- 学習の成果は単位認定する（高認合格・検定合格等）

令和6年度

- 別室にも登校できない生徒には仮想空間（VLP）も活用
- オンライン授業・通信教育を活用する生徒の支援
- 他の通信制高校で科目履修をする生徒の支援
- 地域の不登校中学生の体験受入で高校進学への意欲の醸成



大型スクリーンに投影した仮想空間で常に学校・支援チームとつながる

対話や交流のスペース



オンライン活用の個別学習



集中できる個別学習ブース



特性のある生徒への支援

自閉
スペクトラム症

情緒障害

学習障害
(LD)

注意欠陥
多動性障害
(ADHD)

(いずれも知的障害を伴わない場合)

都教育委員会の取組 【校内】 通級による指導 【校外】 コミュニケーション・アシスト講座

世田谷泉高校の取組 入学前相談・授業アンケート等で配慮事項を確認
Y S Wと連携した個別支援計画の作成・就労支援
都の「働くチャレンジプログラム」で就労支援

働くチャレンジプログラム

令和5年度から5つのモデル校で

世田谷泉

大江戸

荻窪

八王子拓真

足立新田

インターンシップ体験プログラム



体験先企業

短期間のインターンシップ体験で
職業観や勤労観の形成を支援

就労支援プログラム

アセスメント
事前学習

実践的な長期
インターンシップ

実施状況を
学校へ報告

事後学習

就労移行支援事業者

就職を希望する場合

学校と連携した就労支援
就労後の職場定着支援

最後に

チャレンジスクールは不登校を経験した
皆さんのための学校です。

登校することだけが目標のではなく、
「学ぶ」ことが目標です。
学ぶ方法もこれまで以上に増えていきます。

登校していないこと、登校しないことを
否定的に考える必要は絶対にありません。